

導入事例

ASH CORPORATION CUSTOMER STORIES :
WAIWAI PLAY LAB

導入事例

ワイワイプレイラボ



宮崎県延岡市の
映像技術体験スペース
waiwai PLAY LABが
TriCaster Mini 4Kを導入



先端テクノロジーや動画エンターテインメントで 遊べる・学べる・交流できる体験型施設

「市民が気軽に映像、テクノロジーに触れるきっかけを作る」をコンセプトに地域貢献の一貫として誕生したwaiwai PLAY LAB(ワイワイプレイラボ)。そのメインスタジオでは、TriCaster Mini 4Kをソースや送出先の結節点として導入し、CG合成や動画収録で活用している。

株式会社ケーブルメディアワイワイは、宮崎県の延岡・日向エリアを中心に、放送事業、電気通信事業、番組制作、電力小売、広告・出版事業など幅広いサービスを提供するケーブルテレビ局だ。

同社は、地域に開かれた、映像やテクノロジーに触れられるハブとなることを目指して、waiwai PLAY LABを2022年3月にオープンした。同スペースのメインスタジオには「TriCaster Mini 4K」が導入され、その中核を担っている。導入の経緯や使用状況についてケーブルメディアワイワイメディア局の山元拓朗氏にインタビューした。



「映像、テクノロジーに触れてもらう」場、waiwai PLAY LAB

延岡駅の目と鼻の先の好立地に位置するwaiwai PLAY LABは、「市民が気軽に映像、テクノロジーに触れるきっかけを作る」をコンセプトに地域貢献の一貫として誕生した。新たに何かを生み出す地域の核となるために、以下の3つの目標を山元氏は挙げた。

- ・市民が発信者となる裾野をつくる
- ・地域の魅力を発信できるクリエイターを育てる
- ・地域の賑わいの活づくり、ゆくゆくはカルチャーとして根付かせる

先述のコンセプトにあるようにwaiwai PLAY LABは、まさに最新のテクノロジーに触れられる施設となっている。主要な4スペースの構成と役割を紹介しよう。

待ち合わせやイベントスペースなど多目的に利用できる「オープンラボ」、VR/ARなどデジタルコンテンツや最新テクノロジーに触れられる「アミューズラボ」、ケーブルテレビサービスの「ショールーム」、収録や配信設備を完備し、レンタル可能で大きさの異なる3部屋の「ラボスタジオ」だ。そしてTriCaster Mini 4Kはラボスタジオに核となる機材のひとつとして

導入された。

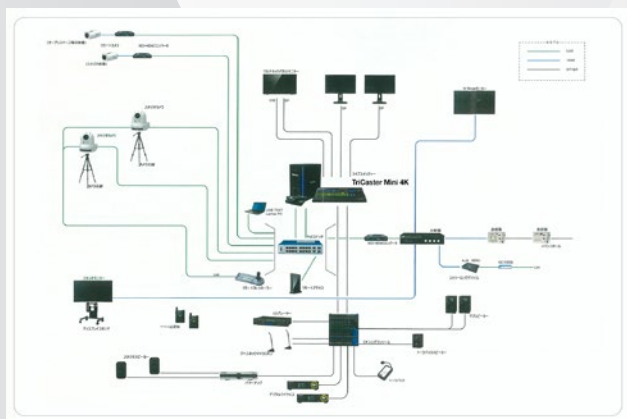
ケーブルメディアワイワイの局ではブロードキャスト業務に最適化された大型の、いわゆる本格的なスタジオ収録機器が導入されているが、ラボは局に比べスペースに限りがある。導入する機材もコンパクトで最大限パフォーマンスを実現できることが望ましかった。また、当初からスタジオを貸し出す想定だったため、誰でも使いやすい操作性や視認性の高さも求められる。これらの条件を満たしたのが、TriCaster Mini 4Kだ。

TriCaster Mini 4Kの「ネットワークケーブルを介してIP化された映像を取り込めるため映像の自由度が高い」、「収録、配信、合成、何でもできる」、「少数の人員でも操作が可能」といった特長がラボへの導入の決め手になった、と山元氏。さらに、TriCasterが得意な合成や配信と相性の良いeSportsのプレイヤーが社内に在籍していたり、将来性のある4Kが扱える点もポイントになったという。



TriCaster Mini 4Kが映像と音声の核

TriCaster Mini 4Kが導入されたスタジオ全体の構成について紹介しよう。



TriCaster Mini 4Kが接続されたPoEスイッチは、LANネットワークを構成しており、4台のNDI対応カメラ、カメラ制御用のリモートコントローラー、テロップ用のPC、リモートアクセスポイント、NDIからHDMIに変換するコンバーターが接続されている。コンバーターの先にはHDMIの分配器が接続されていて、施設内外に映像を送出できる。映像周りをこれだけシンプルな構成にできる理由は、TriCaster Mini 4KがNDIに対応しているからだろう。NDIはLANネットワークで各機器を簡単に接続できるという特長があるのだ。

さらにTriCaster Mini 4Kには、配信やプレビュー画面を確認するためのモニター、音声用のミキシングコンソールが繋がっている。ミキシングコンソールの先は、CDプレイヤー、スタジオや編集室のマイク、スタジオ、

トークバック、サブといったスピーカーとなっている。つまりTriCaster Mini 4Kの持つ接続の柔軟性の高さが、ソースや送出先の結節点として活かされている。



動画の収録や制作をプロと一緒にできる安心感

waiwai PLAY LABの利用者とその目的も多様だ。TriCaster Mini 4Kが導入されたスタジオには、施設視察のために訪れた行政関係者、動画撮影の場所として使用した市民団体、TriCasterの操作方法を覚え自社内の映像制作を目指す一般企業、番組制作体験をしにくる小学生から高校生までの学生など様々な人たちが訪れる。

利用者には好評で、「近隣に同規模の貸しスタジオが無かったので重宝している」「動画の収録や制作をプロと一緒に確認しながら進められて安心感がある」「達成感を得られる」などの意見をもらっているという。また、利用者も着々と増えており、市外から訪れる方や、繰り返し遊びに来てくれるお子さんもいるとのことだ。これまでなかなか接点のなかった若い世代へのアプローチという当初の目的に合った使われ方もされていて、運営する立場の山元氏としても満足度は高いという。



若い世代への訴求イベントとして、夏休み期間中に合わせて開催された「ラボまつり」では、TriCasterの合成機能を使ってCGによる「映える」背景に入って撮影ができるフォトスポットが用意された。楽しんでくれた来場者が多く、今後も季節に合わせたイベントにTriCaster Mini 4Kを活用していく予定だ。そのほか、VRアートを手掛ける「せきぐちあいみ」さんをゲストに招き、合成でVRアートを背景にしながら作品について語ってもらったトーク

イベントでもTriCaster Mini 4Kは活躍したという。

「TriCasterはできることが多く、まだまだライトな使い方ができていない」と控え目に語る山元氏だが、同時に「TriCasterの新しい機能を他のスタッフと一緒にゲーム感覚で覚えている」と楽しみながら社内教育を実践されているとも教えてくれた。山元氏はTriCasterを、「番組制作経験がなかったりアルバイトの社員であっても、楽しみながらすぐ覚えられて使いやすい」、「セッションの複数保存ができて、レンタル業務での利便性が高い」、「お客様にデモンストレーションする際にお客様の意見をリアルタイムに反映でき、イメージを持ってもらいやすい」等、高く評価している。特に使いやすさという点からは、利用者のデジタル機器に対する抵抗をなくしてもらおう一助になっていると感じているようだ。

利用者側にも運営側にも好評なTriCasterだが、waiwai PLAY LABには課題もある。映像線はIP化できた一方で、音声のラインはアナログが採用されているため、編集用の素材収録に使用する場合にはリップシンクの手間が発生してしまっているのだ。山元氏は、もともとTriCasterはそのような用途で使用するよう設計されていないとは分かっているながらも、映像と音声を簡単かつ正確に合わせられるような新しい技術の登場を期待しているとのことだ。



市民が「発信者」となる裾野に

今後の活用予定として山元氏は、「現在はまだ行っていない映像配信に挑戦したい」、「eSportsイベントをwaiwai PLAY LABで開催し会場内の大型LEDスクリーンにTriCasterで合成された映像を写したい」と語ってくれた。同ラボに設置されたLEDスクリーンやプロジェクターにイベントの様子を映し出せば、相当の盛り上がりになるだろう。

都会と地方の情報格差が問題視される昨今ではあるが、waiwai PLAY LABのように市民に開かれた多目的施設の存在は、市民自身による情報発信のきっかけや後押しとなり、そのギャップを埋めて余りあるものにする期待せざるにはられない。

アスク・エミーの導入事例はこちら

<https://www.ask-media.jp/solutions.html>



導入製品



NewTek TriCaster Mini 4K



AJA HELO



お問い合わせはこちら

本システムに関する問い合わせ先

アスク・エミー
Pro Video solution by ASK Corp.

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21
山脇ビル 7F 株式会社アスク M&E 事業部

取材協力



🌐 <https://waiwaipplaylab.com/>

Twitter : <https://mobile.twitter.com/waiwaipplaylab>

YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCbA-EX2jptiLD4Y12eXbVA>